

[成果情報名] 10月下旬開花の黄色秋小ギク有望系統「長崎 AYC1」

[要約] 秋小ギクの有望系統「長崎 AYC1」は、10月下旬までに出荷できる。花色は黄で、無効側枝の発生がほとんどなく、側枝は立性、葉は小型・立性であり、出荷調整や花束加工が非常にしやすい形状である。

[キーワード] 秋小ギク、黄色、フラワーフォーメーション

[担当] 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[代表連絡先] 電話（代表）0957-26-3330（直通）0957-26-4326

[区分] 花き

[分類] 普及

[作成年度] 2015年度

[背景・ねらい]

燃油や資材等生産コストの上昇により施設花き経営が厳しい状況にある中、本県では、近年、露地栽培により低コスト生産が可能な小ギクの作付推進を図っている。小ギクは家庭用仏花として盆や彼岸、年末を中心に年間を通じて堅調な需要がある。本県でも多くの品種が導入されているが、本県の気候や作型にあった品種が少ない、出荷調整に手間がかかる等の問題がある。

このため、栽培特性や品質、草姿に優れ、本県の気候や作型に適合した本県オリジナルの小ギク品種を作型別（7～12月出荷）、色別（白・赤・黄の3色）で育成することとし、ここでは、10月下旬出荷用黄色系統の選抜を行う。

[成果の内容・特徴]

秋小ギクの有望系統「長崎 AYC1」は、長崎県農林技術開発センターの試験圃場において、当センター保有のかば色の秋小ギク選抜系統の自然交配により得られた実生の中から2012年度に選抜した系統であり、以下の特性を有する。

1. 花色は黄（RHSカラーチャートYELLOW GROUP 9-A）であり、管状花が開き始めるまでは緑芯である（写真2）。
2. 自然日長下において、6月下旬に定植し、摘心、整枝（3本/株）を行うと、10月下旬までに開花する（表1）。
3. 秋小ギクの黄色品種「きぼう」と比較すると、無効側枝の発生がほとんどない。（表1、写真2）。
4. フラワーフォーメーションは3、側枝は立性、葉は小型・立性である。（表1、写真1・2、図1）。
5. 切り花品質は切り花長91～114cm、80cm調整重52～84gであり、県切り花標準出荷規格の最上位規格 切り花長80cm、調整重50gを超える（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 花芽分化期である8月中下旬頃の平均気温は、2013年度は平年値より高め、2014および2015年度は低めに推移した。開花日の変動幅は10日である（表1、表3）。
2. 2015年度内に品種登録出願申請を行う。
3. 2016年度に電照による開花調整が可能であるか試験を行う。

[具体的データ]

表1. 黄色秋小ギク有望系統「長崎AYC1」および対照品種「きぼう」の開花特性

系統・ 品種名	試験 年度	栽培 条件	開花日 (月・日)	切り	切り	頂花	有効	無効	80cm調整	花蕾 数	花径 (mm)	茎径 (mm)	FF	80cm 調整重 (g)
				花長 (cm)	花重 (g)	下 節数 (節)	側枝 数 (本)	側枝 数 (本)	後無効 側枝数 (本)					
長崎AYC1	2013	平張	10.28	98	116	-	11.0	0.5	-	38	45	7.3	3.0	84
	2014	平張	10.22	114	100	59	6.2	0.0	0.0	28	46	6.0	3.0	61
	2015	平張	10.18	106	84	54	9.0	0.0	0.0	20	43	5.6	3.0	55
	2015	露地	10.19	91	71	54	10.0	0.0	0.0	19	42	5.0	2.2	52
きぼう (対照)	2013	平張	10.28	105	156	-	9.7	10.0	-	37	36	5.6	3.0	70
	2014	平張	10.27	112	130	56	5.0	5.0	2.8	27	37	4.8	3.2	50
	2015	平張	11.5	112	120	59	6.5	2.8	2.8	27	37	4.7	2.8	59
	2015	露地	11.5	110	167	56	5.7	5.3	2.3	21	38	4.2	3.2	50

注1) 平均的な6本の調査による平均値 -は調査省略

注2) 有効側枝は切り花の先端から下30cmのところまでに発生した花蕾が付いた側枝

その下に発生した花蕾が付いた側枝が無効側枝

注3) 花蕾数は開花輪数と直径5mm以上の蕾数 花径は開花した頂花で測定

茎径は最下位の有効側枝の直下で測定

注4) FFはフラワーフォーメーション(図1参照)

注5) 80cm調整重は切り花を長さ80cmに調整し有効側枝以外と下葉(20cm)を除去して測定

表2. 現地試験における「長崎AYC1」の開花特性

試験 年度	試験場所 および条件	開花日 (月・日)	切り	切り	節数 (節)	頂花	有効	無効	80cm調整	花蕾 数	花径 (mm)	茎径 (mm)	FF	80cm 調整重 (g)
			花長 (cm)	花重 (g)		下 節数 (節)	側枝 数 (本)	側枝 数 (本)	後無効側 枝数 (本)					
2014	長崎市 露地	10.14	103	63	56	53	6.5	0.0	0.0	24	38	5.9	3.0	52
2015	佐世保市 露地	10.19	96	66	55	55	8.0	0.3	0.0	16	44	5.2	3.0	44

注1) 平均的な6本の調査による平均値 調査方法は表1に同じ

注2) 現地試験場所の長崎市は露地圃場(標高約300m)、佐世保市は露地圃場(標高約270m)



写真1. 「長崎 AYC1」の草姿



写真2. 「長崎 AYC1」の開花の状況

※耕種概要

栽培場所 : 木柱平張ハウス(1mm目防虫ネット被覆)
露地圃場(2015年度のみ)

施肥 : 基肥のみ N:15、P₂O₅:13、K₂O:13 kg/10a

定植間隔 : 10×10cmの6目ネット2条植え

整枝 : 3本/株

管理日程 :

年度	栽培場所	挿し芽	定植	摘心	整枝
2013	木柱平張	6月12日	6月27日	7月10日	7月22日
2014	木柱平張	6月4日	6月25日	7月2日	7月24日
2015	木柱平張	6月3日	6月23日	6月29日	7月21日
	露地	同上	同上	同上	同上

表3. 花芽分化期以降の旬別平均気温及び平年比(°C)

年		8月		9月		10月		
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
2013	気温	30.9	27.6	23.7	25.8	24.4	24.1	19.4
	平年比	3.1	0.7	▲2.1	1.6	2.1	3.8	0.7
2014	気温	26.1	25.4	25.2	22.7	22.6	21.2	18.2
	平年比	▲1.7	▲1.5	▲0.6	▲1.5	0.3	0.8	▲0.5
2015	気温	26.7	24.7	23.6	22.0	23.4	18.8	17.5
	平年比	▲1.1	▲2.2	▲2.2	▲2.2	1.1	▲1.5	▲1.2
平年		27.8	26.9	25.8	24.2	22.3	20.3	18.7

[その他]

研究課題名 : 長崎県オリジナル秋小ギク品種の育成

予算区分 : 県単

研究期間 : 2011年度~2015年度

研究担当者 : 竹邊丞市、池森恵子